

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 町田真弘会

- ・ 法人本部 総務
- ・ 高齢者グループホーム光の園町田
- ・ 高齢者デイサービスセンター光の園町田
- ・ 高齢者グループホーム光の園おおくら
- ・ 小規模多機能ホーム光の園おおくら

目 次

- ◆社会福祉法人 町田真弘会 令和5年度 総括・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3 - p.5

- ◆社会福祉法人 町田真弘会 中長期計画の進捗状況について・・・・・・・・ p.5 - p.7

- ◆令和5年度 法人本部及び各事業所の年間目標に対する達成状況・・・・ p.8 - p.12

- ◆令和5年度 各事業所「稼働率」目標に対する達成状況・・・・・・・・ p.13

- ◆年間行事計画 実施報告について・・・・・・・・・・・・・・・・ p.14 - p.15

- ◆人材の雇用、ICT、BCP について・・・・・・・・・・・・・・・・ p.16- p.17

- ◆職員定例会議、各種外部会議、研修、委員会の実施状況について・・・・ p.18 - p.19

- ◆地域との交流事業、地域における公益的な取り組みについて・・・・・・・・ p.19 - p.20

- ◆社会福祉充実計画に関して・・・・・・・・・・・・・・・・ p.20

【総括】

①法人

<稼働率・売上に関して>

令和 5 年度はご利用者様の入れ替えが多い一年でした。高齢者グループホーム光の園町田・高齢者グループホーム光の園おおくらにおいて、1年間でそれぞれ5名・7名の合計12名もご利用者様の入れ替えがありました。また、高齢者デイサービスセンター光の園町田・小規模多機能ホーム光の園おおくらにおいても、酷暑の時期にかけてご入院やご逝去のため退所されるケースが複数ありました。

年間を通じた稼働率に関しては、GH 光の園町田が 94.3%、GH おおくらが 93.5%、デイサービスが 58%、小規模が 78.3%と昨年度に比べて低い数字となっています。そのため純粋に昨年度と比較すると売上が下がっていると同時に、光熱費の高騰、食材料費の高騰、人件費の上昇も含めて利益率は低下しています。

	令和 4 年度	令和 5 年度	増減	前年度比
売上	341,843,881	331,521,291	-10,322,590	96.9%

<事業継続に関して>

令和 5 年度は光のおおくら拠点における B C P の整備を行いました。光の園おおくらが水害のハザードマップ上に位置するため作成した避難計画に沿って訓練を実施しています。各拠点において防災、火災、風水害、各種事態に備えられるように引き続き対応をしていきます。

<新型コロナウイルスについて>

施設内における基本的な感染症対策、衛生用品の確保、従業員及び利用者の体調管理を行って参りました。令和 5 年 5 月より新型コロナウイルスの類型が引き下げられました。施設内では引き続き感染症対策、衛生用品の確保、従業員及び利用者の体調管理を行っています。令和 5 年度においても、職員、ご利用者様の感染が見られ都度対応をしております。流行時には面会制限を設け、ご家族にもご協力をいただきました。医療機関との速やかな連携の下、二次的な感染、重症化等は抑えることができています。

<人材不足に関して>

各事業所の人材は現状不足しています。求人広告や募集をかけるも新型コロナウイルスと国内の生産労働年齢人口の低下等の影響を受け、応募があつまらない1年でした。また、入職後 1 年以内に離職してしまう方が 8 割ほどとなり喫緊の課題だと考えています。人材の間口を広げるため、新しく夜勤専従者を雇用しています。メリットとしては他職員の夜勤負担の軽減ができること、デメリットとしては、夜勤専従者が離職した場合のカバーが

大きな負担となる可能性があります。令和 6 年度においては勤務形態の変更、働きやすい職場環境の整備に力を注いでまいります。

②高齢者グループホーム光の園町田

令和 5 年度は、5 名の利用者様の入れ替わりがありました。年間稼働率は 94.3%と目標の 96%を下回る結果となりました。例年になく酷暑の時期にご利用者のターミナルが重なり、職員がチームケアを実施し大変ながらもご利用者様に寄り添っていただけたかと考えます。

また、4 月よりホーム長が変更になりました。新体制での 1 年となりましたが、職員を上手にまとめていただき、活力のあるホームを築いていただいております。結果、年間を通して離職者は 0 名となっております。職員体制が落ち着くことで、チーム内の情報共有、向上心、ケアの質がよくなり、ご利用者様の笑顔に繋がるという好循環を産めております。

コロナが 5 類に引き下がり、外出、施設内行事、家族との交流事業などコロナ前のグループホームでの生活を取り戻しつつあります。

③高齢者デイサービスセンター光の園町田

令和 5 年度の月間ご利用者様の延べ人数は月平均 281 人、年間稼働率も 59%と目標の 65%を達成することが出来ませんでした。登録者数においても年間目標 35 名に対して月平均 30 名、3 月末時点で登録者 31 名となっております。

今年度はサービス終了となるご利用者が例年になく多い一年でした。年間を通じて 13 名の方が終了となっており、稼働率、登録者数の伸び悩みの要因となってしまいました。とは言え、新規契約は毎月コンスタントに出来ていますので生活相談員を中心とした営業活動やご利用者の日頃の様子をご家族に伝える連絡帳や写真の活用、職員一人一人の送迎時におけるご家族対応によるご家族との信頼関係の構築が結果に繋がっていると思います。

また、外出行事等も計画し始めています。気候の良くなった春先より感染症対策には十分注意し近隣の公園へお花見や散策に出かけ、春の陽射しの下で久しぶりの皆さんとの外出を楽しめました。

④高齢者グループホーム光の園おくら

令和 5 年度は、7 名の利用者様の入れ替わりがありました。かつて経験のない数の利用者様の入れ替わりで、新しい入居者様との関係性の構築に取り組んで参りました。

5 月にはコロナが 5 類感染症に移行しましたが、グループホームでは気を緩めるわけにはいかず、引き続き感染対策を継続してきました。そのような環境の中でも 7 月には 4 年振りの家族会を開催する事ができました。家族会を知らないご家族が半数以上でしたが、多くのご家族の皆様が参加してくださり、利用者様のおくらでの日常の様子を見ていただく事ができたのでとても嬉しく思いました。また近場ではありますが、桜の花見やバラ園の見学

など外出行事も再開する事ができて、久しぶりの外出で嬉しそうな利用者様の姿を見る事ができました。コロナ禍で制限されていたグループホームの日常を少しずつ取り戻している事を実感する事ができました。

⑤小規模多機能ホーム光の園おおくら

令和5年度は、新体制への移行の一年となりました。上半期は、ケアマネジャーの引継ぎが行われ、長年ホームを牽引してきたケアマネジャーが退職。高齢者グループホーム光の園町田のホーム長が異動し新たに就任しています。下半期は、管理者が併設の高齢者グループホーム光の園おোকらの管理者を兼務することに。おোকらを一つの拠点として捉え、各事業所のケアマネジャー、主任、副主任に業務を任せていく体制に移行しつつあります。

営業目標であった月間平均登録者数は目標の23.5名に届かず、結果は22.7名。11月頃より法人内の高齢者グループホームへの入所や医療機関への入院、居宅サービスへの移行などが重なり18名まで減りました。登録人数を回復させるためには人員配置における職員採用及び【訪問】サービスのみの利用者の獲得が必要です。すべてのサービスを提供するためには常勤を現在より1名増員することが求められます。今回、【訪問】サービスのみ利用する方が2名サービス終了となりました。サービスが終了しても【通い】の枠は増えず、新規獲得につながらないため、今後、【訪問】サービスのみの利用者については【通い】サービスにつながる支援を行っていかねばなりません。

しかしながら登録人数が減った一方で、平均要介護度は4月の1.88から年度末に2.29と大きく数字を伸ばしました。家族からの増回希望も考慮し、区分変更申請を行い、適正な介護度になったと言えるでしょう。令和6年度はサービス提供体制の確立が求められる1年になります。

◆社会福祉法人 町田真弘会 中長期運営計画について

【令和5年度の取り組み】

①介護人材の確保

1) 職員の状況について

令和6年4月 正職員への登用人数 ⇒ 1名
 総職員数(令和6年4月現在) 65名
 ※正職員 32名・契約社員 7名・パートタイム 26名

<入退職状況>

	入職		退職		
	契約社員	パート	正職員	契約社員	パート
GH町田	0名	1名	0名	0名	0名
デイ	0名	2名	0名	0名	1名

小規模	0名	4名	2名	0名	7名
GHおおくら	3名	9名	1名	1名	5名

離職者（全体） 17名 離職者（正職員） 3名

②グループホーム情報バンクを通じた運営場所の選定

多摩市では、グループホームと小規模が建てられるような広い土地が現状みつからないこと。町田市においても整備率の観点から、第9期介護保険事業計画においてはグループホームの公募を行っています。今後は町田市内において新規施設を検討して参ります。

③サテライト事業所設立の検討

現在、人材不足の課題を解決することが喫緊となっています。サテライトの検討を引き続き行ってまいります。

④託児施設の設置検討について

企業主導型保育事業については厚生労働省より令和5年度～待機児童数が減少していることを踏まえ、新規募集の実施が無くなりました。こちらに関しては、職員寮の整備等別のアプローチを今後検討して参ります。

⑤新型コロナウイルス感染症対策について

- ・ワクチンの接種については5類への引き下げに伴い、任意での接種となりました。

- ・感染症対策備品の整備

年末年始の陽性者（利用者）へは主治医と連携をとり経口薬を使用。重症化せずに終息することができました。施設内の除菌、換気、予防に必要な備品については常に1～2ヵ月程の在庫を持ち運営を行うことができました。

2.人事労務・給与制度

①働き方改革関連法への対応

- ・年次有給休暇の計画的取得について

10日以上の年次有給休暇が付与される全ての労働者に対し、年5日、時期を指定し有給休暇を取得してもらいました。

②職員の定着化へ向けた取り組み

- ・常勤契約社員については、勤務継続1年以上を経て取り決める評価及び面接を通過したものは皆正職員化する。

⇒令和5年度においては1名の契約社員を正職員へ登用しました。

・勤続 8 年以上で介護福祉士の資格を持っているものに対して、特定処遇改善金を毎月の給与に上乘せする。

⇒対象者 10 名に対して実施を行いました。

・職員に対して、資格、経験、勤務形態を考慮した上で介護職員支援補助金を毎月の給与に上乘せする。

⇒全職員に対して実施しています。

・福利厚生制度の強化

職員定着後を見据えた、職員のための退職金制度の見直し。施設内における軽食、飲料等の提供等、法人独自の福利厚生を創出については引き続き検討していきます。

③パワハラ規程の新設、周知について

パワハラ防止規定の施行と職員への教育、周知を行いました。

④ 5 s 活動の推進について

5 s 活動推進委員会を設置し、施設内外の美化推進及び働きやすい職場環境を目指し書類の整理、電子化を行いました。

3.地域ニーズの把握

令和 5 年度は新型コロナウイルスが 5 類に引き下げられ、運営推進会議が対面で行うことができました。施設内における納涼祭や家族会も再開することができています。地域のお祭りや、行事は自治会の高齢化等も重なり再開がされておらず中止となっています。高齢化が進んでいることから、自治会や地域諸団体においても地域を引っ張る力が弱まっているように感じます。地域と連携をとり、地域課題の解決に取り組んでまいります。

◆法人本部及び各事業所の年間目標（令和5年度）に対する結果

①法人本部

1) 各事業所と連携し目標売上予算達成を達成する。

⇒売上予算+4百万円

2) 年間スケジュール（別紙）をたて、事業計画の進捗確認、修正を行う。

⇒年度が始まる前に年間スケジュールをたてた事により各会議、各事業所との連携がスムーズに行えました。また、月1回の管理者ホーム長会議により、各事業所における事業計画・予算進捗状況の確認も随時行うことができました。

3) 書類、業務等の効率化を図るためICTの整備を行う。

⇒各事業所にi-padを導入しました。入居相談、家族とのWeb面会、社内Web会議と多岐に渡り活用しています。事業所間の電子ファイルのやり取り、会議の資料をクラウド上で共有しています。

4) SNSを活用した広報、採用活動の強化

⇒施設内の様子をブログにてお伝えしています。採用面におけるSNS活動については世代別にターゲットを絞り、各世代に有効なSNSの調査を行いました。令和6年度より実施をまいります。

5) 研修体制の強化及び、サービスの質の向上

⇒研修計画に沿って本部から発信する研修、毎月、個々が自ら研修内容を考え発表する場を設けました。

6) 職員の定着に向けた福利厚生面の充実化。

⇒10日以上有給休暇が付与される全ての労働者に対し、年5日、時期を指定し有給休暇を取得してもらいました。

7) 海外実習生の教育体制の整備、受入体制の強化

⇒技能実習生に対して、生活相談、日本語学習支援を行いました。

令和5年12月より技能実習生2名を特定技能として雇用しました。

光の園おおくらに令和6年3月に2名の技能実習生を受入れています。

8) 事業運営の適正化に向けた内部監査の実施。

⇒9月、10月に全4事業所に対して内部監査を行いました。職員の質の向上と事業所運営の適正化に寄与できたと思います。

8) BCP（事業継続計画）の策定。

⇒BCP に基づく避難訓練を実施しました。職員連絡網の体制、実際の災害時に誰でも対応ができるよう継続して訓練をしていくことの必要性を実感しました。BCP の文言、内容をわかりやすい言葉で記載し、対応してまいります。

9)感染症対策、必要備品の確保

⇒コロナが5類に引き下げられましたが、感染症対策は継続して行っています。

②高齢者グループホーム光の園町田

1) 年間稼働率 目標 96%以上 ⇒ 94.3%達成。

2) 利用者の現状維持と利用者の個々の想いに寄り添い職員も一緒に楽しめるようにする

⇒利用者の方が重度化してきており、その方一人一人に残されている力と想いに寄り添いながら、職員間で話をし、ケアを行っています。各種行事が行えない中で、ホームで行える事を考え行動しました。

3) 利用者の身体状況、認知症の進行具合を把握し日々の変化に対応したケアを行う。

⇒毎日の申し送り、毎月のスタッフ会議、ケア会議を通じて日々の変化に対応したケアを行いました。

4) ご家族への定期的な連絡、又ご家族と利用者の方が一緒に過ごせるような環境を作る。

⇒6月に家族会を4年振りに開催することができました。BBQ を通じてご家族とご利用者様が楽しく交流をされていました。また、面会制限も感染症の流行に合わせてコントロールしています。

5) グループホームチームケアの徹底 ※情報共有、職員間のコミュニケーションを図る。

⇒毎日の申し送り、毎月のスタッフ会議、ケア会議を通じて情報共有をはかり、各種行事や日々の業務の中でコミュニケーションを図りました。

6) リーダー層になれるような人材の育成強化。

⇒ホーム長、主任、副主任に対しては利用者の生活指導、利用者生活記録の再編と管理、スタッフの指導・管理の徹底するよう指導を行っています。業務分担を見直し、中堅職員に対して新しい業務を与え、広く業務を覚えさせ、リーダー層の職員には自身の業務をふる事により教える経験、自身の業務の見直し、新しい視点をみつけることを学んでもらっています。

7) 新人スタッフに対するOJT体制の構築。

⇒新人スタッフに対しての振り返りシート活用は各スタッフへ周知し必ず行うようにしました。メインをホーム長・主任に置きOJT体制を構築できたと考えます。

8) 施設内における感染症対策の徹底。

⇒施設内については換気、除菌はしっかり行えています。

9)施設内外の美化運動の徹底。

⇒外回りに関して、雨の日以外は職員が清掃活動を行ってくれきれいな外観を保つことができました。

10) 事業継続運営のための利用待機者の確保。

⇒待機者については月1回の管理者ホーム長会議で集約をし、小規模、デイと連携してきました。

③高齢者デイサービスセンター光の園町田

1) 年間稼働率 65%以上 月平均利用者数 300名以上

⇒稼働率 59%。月平均 281名

2) 年間を通じた月登録者数 35名以上 ⇒ 月平均登録者数 30名。

3) 生活相談員を中心としたカンファレンスによる情報共有と統一したケアの実践。

⇒月一回の職員会議での事例を用いたカンファレンスや日々の振り返りの中で情報共有ノートを活用し、統一したケアの実践を行った。

4) 新人スタッフに対する OJT の確立とリーダー層の育成。

⇒指導担当職員を決め日々の業務を通じての指導をマンツーマンで行い、新人職員の業務上の指導だけでなく、相談事等を聞き解決する事が出来た。

5) 居宅支援事業所のケアマネジャーや医療、訪問介護等、他事業所や地域資源との連携で地域の一員としてご自宅で生活し続けるお手伝いの出来るケアを目指す

⇒サービス担当者会議等を通じて生活全般の問題点を共有し協力して解決する事が出来ています。特に独居の方の生活などは連絡を密に取り合い支援でいます。

6) 内部、外部研修を通じてスタッフのモラル・介護力等のスキルアップに努める。

⇒虐待やハラスメントについての研修を定期的に行い、学習が出来た。

7) 施設内における感染症対策の徹底。

⇒外出レク等の機会が増えているが今後も十分に対策をして実施していく。

④高齢者グループホーム光の園おくら

1) 年間稼働率 目標 96%以上

⇒未達成 95% 利用者7名の入れ替わりがありました。

2) 利用者の現状維持と利用者の個々の想いに寄り添い職員も一緒に楽しめるようにする

⇒未達成 利用者7名の入れ替わりがあり現状維持とはいきませんでした。

しかしコロナ禍の制限解除により利用者と職員の楽しみは増えたと考えます。

3) 利用者の身体状況、認知症の進行具合を把握し日々の変化に対応したケアを行う。

⇒達成 利用者7名の入れ替わりにより、職員及び利用者の双方が環境に適応するのに時間を割く1年となった。職員会議では変化に対する議論がしっかり行われていた。

4) 認知症の進行の緩和とできる事の維持。

⇒達成 モニタリングとアセスメントを徹底し、ケアプランを実行。利用者本人の有する能力を生かした役割の提供を行い、進行の緩和と能力維持ができています。

5) 利用者の状態に合わせた企画、イベントの提供。

⇒達成 コロナ禍で培った室内でもできるレクリエーションの充実はサービスの質の向上につながっている。少しずつ外出も行っており、コロナ前の状況を取り戻したい。

6) ご家族への定期的な連絡、ご家族と利用者の方が一緒に過ごせるような環境を作る。

⇒達成 面会が可能となり、定期的に家族がホームを訪れるようになった。感染症の拡大を防ぎながらの状況ではあるが、グループホームらしい暖かい空間をつくられている。

7) グループホームチームケアの徹底、認知症ケアのスキルアップ

※情報共有、職員間のコミュニケーションを図る。

⇒達成 施設研修及び認知症介護基礎研修の実施により、これまで経験のみで行っていた認知症ケアを、体系化された知識として理解できる職員が増えた。

8) リーダー層になれるような人材の育成強化。

⇒リーダー層、新人、技能実習生のOJT体制で考えると、業務内容については整理されているのだが、人員不足からOJTの結果を早く求めすぎてしまうため、十分なフォローアップが出来ていない可能性が高い。

9) 施設内における感染症対策の徹底・感染症対策をしての地域との交流

⇒達成 職員及び利用者における新型コロナウイルスの罹患はあったが、感染拡大はしておらず感染症対策の成果が出たと考えられる。地域との交流として職員による地域の防災訓練への参加や運営推進会議の対面開催などがあげられる。

10)施設内外の美化活動

⇒業所内における清掃については概ねできているが、共用部及び建物裏、駐車場等まで手が届いていないのが現状である。

⑤小規模多機能ホーム光の園おおくら

1) 利用者の年間登録率 81% (月平均 23.5 名) 以上を目標とする。

⇒未達成 年間登録率 78.3% (平均登録人数 22.7 名)

2) 利用者の状況・状態を考慮した通い・宿泊・訪問サービスの適正化
達成 指標を設け、要介護度とサービス回数の適正化を図った。

3) 職員の資質向上に伴う外部研修への参加

⇒介護支援専門員更新研修の受講 1名

認知症介護基礎研修の受講 2名

4) 高齢者グループホームの待機者を含む新規利用者の獲得

⇒達成 本年度の法人内サービス移行は4名

5) リーダー層になれるような人材の育成強化

⇒未達成 リーダー層人材の前に、一般介護士の獲得と育成が課題となる。

6) 施設内における感染症対策の徹底。

⇒達成 単発的な新型コロナウイルスの発生はあったが拡大することはなかった。

7) 町田安心して暮せるまちづくりプロジェクトへの参加による地域連携

⇒達成 6月27日、10月19日の協議会に管理者が参加。

8) 鶴川圏域地域ケア推進会議の参加等による地域包括支援センターとの連携強化

⇒達成 4月14日、5月18日、6月22日、2月22日の推進会議に管理者が参加。

◆令和5年度 各事業所「稼働率」達成状況について

①高齢者グループホーム光の園町田

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和4年度	令和5年度	
稼働率	98.6%	(目標) 96%	(結果) 94.3%

<入退所> 退所 5名
入所 5名

②高齢者デイサービスセンター光の園町田

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和4年度	令和5年度	
稼働率	60.8%	(目標) 65%	(結果) 59.0%
登録定員	30名	(目標) 35名	(結果) 30名

③高齢者グループホーム光の園おおくら

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和4年度	令和5年度	
稼働率	95.9%	(目標) 96%	(結果) 93.5%

<入退所> 退所 7名
入所 7名

④小規模多機能ホーム光の園おおくら

☆稼働率推移と目標達成状況について

	令和4年度	令和5年度	
月平均登録数	23.4人	(目標) 23.5人	(結果) 22.7人
登録率	80.8%	(目標) 81%	(結果) 78.3%

◆年間行事 活動結果（各事業所）

※実施できなかったものは赤字に、追加で実施したものは青字で記載

令和5年度 上半期（R5.4月～9月）

	GH町田	デイ	GHおおくら	小規模
4月	桜花見(ドライブ) 食事レク 避難訓練	桜花見（ドライブ） 桜餅作り 避難訓練 つつじ散策	桜花見(ドライブ) 食事レク 運営推進会議	食事レク 誕生会 運営推進会議 桜花見（ドライブ）
5月	運営推進会議 こどもの日柏餅作り 畑(夏野菜作り) 庭先食レク(BBQ) 母の日イベント	鯉のぼり（ドライブ） 柏餅作り 母の日制作 桜餅作り	柏餅作り 母の日レク BBQ 防災訓練	鯉のぼりドライブ 食事レク（白玉作り） 誕生会 防災訓練（その他訓練） 野津田公園バラ園散策
6月	紫陽花ドライブ 食事レク 父の日イベント 家族会	夏の壁画 父の日制作	運営推進会議 紫陽花ドライブ 家族会	ドライブ 食事レク 誕生会 運営推進会議
7月	運営推進会議 七夕 流しソーメン 食レク（土用の丑の日）	梅ジュース作り 七夕 紫蘇ジュース作り	土用の丑の日 七夕 流しソーメン 食事レク 家族会	土用の丑の日・七夕・ 流しそうめん・屋台風 やきそば・フランクフルト・ホットドッグつくり・誕生会 防災訓練（総合訓練）
8月	納涼祭 花火大会	納涼祭 紫蘇ジュース作り 提灯作り	花火大会 納涼祭 運営推進会議	納涼祭 食事レク 誕生会 運営推進会議
9月	運営推進会議 お月見 BBQ 秋の味覚狩り	敬老の日 おはぎ作り 運動会 避難訓練	敬老の日 食事レク	敬老会 食事レク（おはぎ） 誕生会 防災訓練（部分訓練） 防災訓練（総合訓練）

令和5年度 下半期 (R.5.10月～R.6.3月)

	GH町田	デイ	GHおおくら	小規模
10月	秋刀魚パーティー 避難訓練(消防) もみじ見学	避難訓練 紅葉見学 家族会 絵手紙制作 貼り絵制作	運営推進会議 BBQ 花火大会 食事レク 運営推進会議	音楽会 食事レク おおくら合同秋祭り 誕生会 運営推進会議
11月	家族会 運営推進会議 鶴川ふれあい祭り 紅葉狩り 芋ほり・焼き芋大会	紅葉ドライブ 壁画制作	家族会 紅葉ドライブ 秋の味覚食事レク ミニ運動会 防災訓練	いちょう狩りドライブ 食事レク (焼き芋、どらやきづくり) 誕生会 防災訓練 (その他訓練)
12月	クリスマス会 大晦日 イルミネーション 冬至 (ゆず湯)	クリスマス会 ツリー制作 紅葉散策	運営推進会議 クリスマス会 食事レク 大晦日	クリスマス会 (デコレーションプチケーキ) 食レク (わたあめ) 誕生会 運営推進会議 手作りパチンコ遊び
1月	正月初詣 七草粥・鏡開き どんと焼き	初詣 鏡開き 書き初め	初詣 七草粥 正月レク 書初め	初詣 食レク (おせち料理) 誕生会 防災訓練 (総合訓練)
2月	節分 恵方巻きづくり 運営推進会議	節分 恵方巻作り バレンタインチョコ作り 蠟梅散策	節分 恵方巻き作り バレンタインレク 運営推進会議	梅見ドライブ 食レク (恵方巻) 誕生会 運営推進会議 防災訓練 (総合訓練) 節分イベント
3月	運営推進会議 ひな祭り 桜餅作り 梅のお花見 (薬師池公園)	ひな祭り 壁画制作	ひな祭り 桜餅作り 食事レク	ひなまつり 食レク (バームクーヘン作り) 誕生会 防災訓練 (部分訓練) 桜の木の制作

◆人材の雇用について

①契約職員の正職員化について ※継続

- ・常勤契約社員については、勤務継続1年以上を経て取り決める評価及び面接を通過したものは皆正職員化する。
⇒令和5年度は1名の職員を正職員登用しました。
- ・介護職員処遇改善加算の交付の仕方について
→毎月の基本給に一部含む。毎月の処遇改善金として支給（資格手当・運転手当含む）
夏季・冬季の一時金として支給
- ・特定処遇改善加算の交付の仕方について
→正職員（介護職員）で勤続8年以上かつ介護福祉士資格取得者に対して交付を行いました。
- ・介護職員支援補助金等の導入に伴い人件費率は上昇。人件費率目標71%以下
⇒人件費率は69.5%でした。

②外国人労働者の雇用について

- ・令和5年度に2名の技能実習生を雇用。現在4名の技能実習生を受入。
2名の技能実習生を特定技能に切り替え雇用。

③子育て世代への支援

- ・子育て世代の方が安心、安定して仕事ができるように託児施設の設置を検討する。
⇒企業主導型保育事業の新規募集が無くなり社員寮の新設等の検討に切り替えました。

【外 部】

①人材の募集について ※継続

- ・ハローワークでの定期的な求人募集。合同面接会、各種面接会へ参加し活動を行う。
 - ・求人広告における採用活動（ネット媒体、紙媒体）
 - ・ホームページ上における採用ページの強化。モバイル対応。
 - ・夜勤専従や、短時間勤務者、派遣や紹介など幅広い働き方が実現できるようにする。
- ⇒上記の取り組みは全て実施しました。引き続き内部の離職率低下も含めて課題に取り組んで参ります。

②新卒採用について

- ・2023年度卒の大学生、高校生、専門学校生を対象にした採用活動
- ⇒採用活動を行いました。2024年度の新卒採用は0名でした。次年度は関係各所への営業を強め安定して新卒者が採用できる仕組みを構築していきたいと考えます。

◆ICT化について

○令和 5年度 ICT機器導入の推進

1) リスク管理について

- ・光の園町田、光の園おおくら拠点にて防犯カメラを設置済み。
- ・光の園町田、光の園おおくらにあるPCにウイルス対策ソフト及びUTM完備。
- ・Wi-Fi環境も整備済み。
- ・事業所間における各種データ連携とバックアップ体制の整備
マイクロソフトオフィスのオウクラウドとシェアポイントを活用

2) 記録

各種記録、規程、会議のフォーマットを統一し平準化をはかる。
統一フォーマットに関しては(3)におけるシェアポイントを活用

3) 相談業務

入居相談時にi-padを活用する。そのために、各事業所の様子をわかりやすく伝えるためにスライドを作成する。

4) 事務(給与計算・会計・労務管理)作業の効率化について

→タイムカードのシステム化、労務・会計管理のソフト導入を検討
⇒検討を行いましたが費用対効果が合わず、見送りしています。

5) 身体的な負担削減について

→機械を用いた、利用者の移乗時における職員の身体的負担削減等。
⇒身体的負担の軽減のため、職員のボディメンテナンスに関わる機器の導入を検討しています。

6) 利用者の支援体制強化について

→見守り支援サービス(センサーマット等)、入浴(機械浴)の検討
⇒令和6年3月に視察に行き、令和6年度中のセンサーマットの導入を予定しています。

◆BCP(事業継続計画)について

新型コロナ対策向け 地震、水害対策向け

⇒令和5年度よりBCP策定が義務化となりました。策定したBCPに基づき訓練を行っています。職員の連絡網体制及び文言等がわかりにくい等の課題を見つけることができました。令和6年度において修正して参ります。

◆職員定例会議、各種外部会議、研修、委員会の実施状況について

各事業所・・・管理者・ホーム長会議 毎月1回実施 スタッフ会議 毎月1回実施
主任会議・・・毎月1回実施 ※各事業所の報告、事例検討、リーダー層への研修
サービス毎の連絡会・・・

GH連絡会・小規模連絡会・通所連絡会・鶴川圏域社会福祉法人連絡会
⇒新型コロナウイルスの影響で対面での会議は中止。不定期にて Web 開催

令和5年度 研修実施状況

月	参加人数	研修内容
4月	16人	高齢者虐待防止研修・メンタルヘルスについて
5月	16人	感染症に関する研修・適応障害について
6月	16人	職場でのハラスメント防止・高次機能障害について
7月	15人	訪問看護について
8月	15人	介護職とアンガーマネジメント
9月	15人	内部監査の実施について
10月	15人	虐待防止研修・ターミナルケアについて
11月	15人	言葉遣いについて
12月	15人	様々なリーダーシップ論からヒントを得る
1月	15人	感染症について
2月	15人	5s活動について
3月	15人	1年間の振り返りについて
年2回	職員全員	身体拘束・虐待に係る研修
年1回	職員全員	感染症に関わる研修・
10月	9人	GH 全国大会への参加
3月	9人	CareTex への参加

<委員会活動>

- ① 5s活動推進委員会 (年6回実施)
整理・整頓・清掃・清潔・躰の5S活動を推進
施設内外の美化、書類関係の整理等
- ② 介護力向上委員会 (年5回実施)
介護技術の向上に資する研修、取組を行う
現場における事故、リスクマネジメントに対する取組
外部研修(褥瘡について)を実施
- ③ レクリエーション交流委員会 (年4回実施)
レクリエーションを通じた事業所間の交流、強化

事業所間を通じた職員の交流（忘年会・ボーリング大会を実施）

④ 防災委員会（年 5 回実施）

夜間避難訓練の実施。備蓄品の管理。

災害（地震・水害・台風・感染症）に対する防災の想定、研修

◆地域との交流事業について

①運営推進会議

■高齢者グループホーム光の園町田（年 6 回）

5月	定例会・虐待防止委員会	→開催
7月	定例会・虐待防止委員会	→開催
9月	定例会・虐待防止委員会	→開催
11月	定例会・虐待防止委員会	→開催
2月	定例会・虐待防止委員会	→開催
3月	定例会・虐待防止委員会	→開催

■高齢者デイサービスセンター光の園町田（年 2 回）

9月	定例会・虐待防止委員会	→開催
3月	定例会・虐待防止委員会	→開催

■高齢者グループホーム光の園おおくら

4月	定例会・虐待防止委員会	→開催
6月	定例会・虐待防止委員会	→開催
8月	定例会・虐待防止委員会	→開催
10月	定例会・虐待防止委員会	→開催
12月	定例会・虐待防止委員会	→開催
2月	定例会・虐待防止委員会	→開催

■小規模多機能ホーム光の園おおくら

4月	定例会・虐待防止委員会	→開催
6月	定例会・虐待防止委員会	→開催
8月	定例会・虐待防止委員会	→開催
10月	定例会・虐待防止委員会	→開催
12月	定例会・虐待防止委員会	→開催
2月	定例会・虐待防止委員会	→開催

②中学生職場体験・各種実習生の受入

野津田高校福祉課より高校生各 2 名の実習を GH・小規模にて受入

アルファ医療福祉法人より社会福祉士養成講座実習生を2名受入

③大蔵町内会盆踊り・鶴川学園ふれあい祭り

新型コロナウイルスの影響で中止

＜地域における公益的な取り組み＞

- ・各種連絡会を通じた地域における取組

GH連絡会

10月のグループホーム作品展示会は中止。

- ・地域への参加と交流

子供神輿、地域の町内会、児童との交流を実施。大蔵町内会の盆踊り、鶴川学園ふれあい祭りへの出店は新型コロナウイルスの影響で中止。

- ・施設内スペースの地域への開放検討について

予算を設けて着実に畑の整備を行っています。

◆社会福祉充実計画に関して

令和4年度期末時点 社会福祉充実残高 75百万円程

令和5年度期末時点 社会福祉充実残高 97百万円程

→令和5年度より、社会福祉充実計画を実施しています。

以上